

組子ベッド百報

2010. 9-10 月号 (No. 6)

著作権は、(株)総桐筆筒和光が所有します

代表取締役 加島清治

〒830-0424 福岡県三潴郡大木町三八松1048

TEL.0944-33-1421 FAX.0120-279-050

<http://kumkobed.com/>

このニュースレターは”組子ベッド・販売様向け”に編集したものです。組子ベッド、桐たんす、新製品、販売ハウツー、展示会案内、販売店様相互の話題、その等、売上増進繋がる生きた情報を提供していきます。年6回(奇数月)に発行。保管をお願い致します。

残暑お見舞い申し上げます。この百報が届く頃には、猛暑は終わって欲しいものです。



上記は唐津の夏の海。海の家も、とっても賑わっていました。

■ 桐を投資対象にしたマルチ商法にご注意

下記は昨年4月に書いたブログの記事

経済産業省は、連鎖販売業者である株式会社スタイルックエンタープライズ(本社:東京都江東区)に対し、特定商取引法違反行為を認定し、同法第39条第1項の規定に基づき、本年4月11日から7月10日までの3か月間、同社の連鎖販売に関する新規の勧誘、申込み受付及び契約締結に係る業務停止命令を出した。

同社は06年3月ごろから、桐(きり)の苗木3本をオーストラリアで5年間育成・管理する権利を約25万円で販売していた。その際、「会員を紹介すれば毎月2万円くらいの報酬が出る」「海外の大手家具メーカーと取引契約がある」などとウソの説明をして勧誘していたという。これまでに集めた会員は約3万人で、年間約30億円を売り上げていた。

こういうマルチ商法に引っかかった方が3万人もいたことに驚きましたが、“桐”を対象にしたのにも驚いています。詳しく調べていて、桐たんすメーカーとして、たんだんムカツ腹が立ってきた。私らにとっては“桐”は、神聖なるものに等しい。その聖なる“桐”をもとに、人をダマして利を得るとは許しがたい。

7月の半ば頃、電話でしたが、熊本県の山奥の森林組合長さんから、「桐を植えようと思いますが、どう思われますか?」と相談受けた。

九州の桐は、大きくなり過ぎて桐たんすに使いませんと答えましたが、いろいろ話していたら6年したら家具に使える、中国桐が輸入できなくなってきたとある、オーストラリアに桐を植えている。グリーンサポーター等々、会社名は違うものの90%以上、私がブログで投稿したのと同じ。

物腰がとても柔らかかった、自宅にも行った、そして、大川のXXという桐筆筒屋さんも薦めたと言われたので、そのXXという桐筆筒屋さんがどうしてそういうところに首を突っ込んだか分かりませんが、

(株)総桐筆筒和光

組合長さんは信じがたいということでした。それで経済産業省にあった業務停止命令をFAXしてあげましたが、それを見て、さらに驚かれました。

そういえば、えらく急いで契約するようにも言われ、山に植えると言っていたのが、田んぼでもいいと、言われたりしたと、少し冷静になられてました。

組合長さんのサイトはない、もちろん組合のサイトもない。たぶん、ネットという環境もないと思う。そういうところに、悪の手先が回っていて、しかも、それを増長するように大川のXX桐箆笥屋さんが荷担していることに驚くとともに残念に思った。

■三行提報（さんぎょうていほう）



カンブリア宮殿は毎回みてますが、ここんところの話題が激安激安。激安でないと乗り切れないような内容でウンザリ。しかし、7月26日は違っていました。「バーコード」の印刷機を専門に作っているサトーという会社を紹介しました。テーマは「目からウロコのつづやき経営! ~これが驚異の情報掌握術だ~」でした。

社長の藤田東久夫氏は、なりたくて社長になった訳でもなく、印刷の技術も、営業の技量もない。そこで社内からの意見を聞いてみるということをはじめられた。いま流行のTwitterの140文字より、さらに短い127文字で毎日報告書を書かせる、三行提報（さんぎょうていほう）という仕組み。Twitterが始まったのが2006年。三行提報は1983年からはじめたと、これにも驚く。しかし、実際に、三行提報をやってみると、毎日なかなか辛いものがあり、そう簡単にはマネはできない。

左は同氏が出版した「たった三行で会社は変わる」ですが、放送後すぐ発注したので手に入りましたが、いまでは手に入りらないと思います。私の宝物のひとつになりました。

■速達クロネコメール便、行方不明に

とある日の夕方5時頃に四国の某家具屋さんから、色見本板請求があった。できるなら、明日、届かないか?と。郵便の速達では、この時間出しても明日の扱いで、翌々日。それで、速達クロネコメール便にした。集荷に来たお兄ちゃんに「明日着く」と念の為に聞いたら即答で「大丈夫ですよ」とあった。



そしたらその日には届かず、夕方になってクロネコに電話したら、本日は配達できなかった明日配達しますと連絡があった。その翌日の午前中に届くと思っていたら届かない。また問い合わせ。3時過ぎに電話あって10分前に配達完了しました、とあった。ほっとして、某家具屋さんに電話したら、到着してないという。どうなっているんだ!です。完了したものは、うちが送ったものでないことがあとで分かった。

3時なら、郵便の速達すれば、明日は付くと、とりあえず、そちらを手配。

クロネコからは6時過ぎ電話があった、行方不明になったと謝罪があった。この一連の対応の悪さには呆れた。組子ベッド百報は、クロネコメール便。ちゃんと届くことを祈る。

■丸棒作り



桐でなく、杉のベッドに使っているものですが、それに必要な丸棒も杉で作っています。帯鋸とドリルを使うのですが、角材を通せば丸棒となることができます。直径もほぼ均一。帯鋸の歯が粗めで、結構雑な丸棒になりますが、接着効果はバツグン。

なお、この杉のベッド(組子ベッド(杉黒芯))は、材料は杉の黒芯部分を用い、天然素材接着剤、すべて木釘、と、超こだわりの製品で化学物質過敏症の方にもお薦めできるものです。10月より、発注をお受けできるかと思えます。

■大水の中、配達、でも、、、(^_^)



7月の梅雨開けの前の話ですが、組子ベッドの配達が2件。しかも、豪雨が続く直方に。

こちら朝から土砂降り、今日はどうしたものかと思ってましたら、1件のお客様からは「今日じゃなくてもいいよ」と、心遣いのお電話。でも、もう1件の配達があるので、こちらはどうしたものかと電話してみたら、明日からしばらく居ないから、できるなら今日の内でと。

どこまで行けるか?途中引き返すかも?と、出かけました。

遠賀川(写真左)では、満潮と重なってましたが、いつもの広い河川敷は完全に水没して岸まで満タン。脇道に入ったら冠水。このくらいは通行しないとイケないらしく、前からくる車も、しぶきを上げて通過してくる。私らはコワゴワと50M程を通過。深い所は30cm位あったかと思いますが、水がボターの底に当たるのが分かり、時々車体が浮いてました。

しかし、お客様迄300Mで所でアウト。警察官から止められました。この先は冠水して通行止。それで、一山回って違うルートで。こんな時カーナビは便利。まず1件目は、雨にもあわずに無事完了。

2件目は、満水した遠賀川の橋を渡って行きましたが、なんの問題もなく10分ほどで、すんなりと到着。ここでも、搬入→設置→空箱撤収まで、一滴の雨も降らずで奇跡的な納品でした。

■ 読めそうで読めない漢字 " 抽斗 "



~~抽斗~~ → 引出

先日、友人から、"抽斗(ひきだし)"って読めなかったと言われて、ガーン。ネットで調べてみたら、読めそうで読めない漢字に、"抽斗"があって、ガーンです。ゆっとう、うず、しゅうす、さいと、れんとん、なんとん、うべな、ほくと、ちゅとり、無理矢理読むとこうなるようで、ガーンです。ということで、当社では、"抽斗"ではなく、"引出"と書くことにしました。

■ この時期の焼き作業はたいへん

組子ベッドのフレームの部分の焼き加工風景。外気温34度でも、このテント小屋は軽く40度超えています。両方に窓がありますが、バーナーの火が舞うので閉めた状態での作業。この時期はちょっとたいへんです。



■ 組子ベッドの組子



下記は、組子ベッドの組子を作っているところ。溝のある台に、組子の素材をはめ込むようにして編み上げて行きますが、当初はこの台がなく、いきなりはめ込んでいたので、なかなかはめづらく時間も掛かってました。

この溝のある台を作ってから、誰でも簡単に作業ができるようになり、組み上がる時間も早くなりました。また、組子の溝の間隔が微妙にずれると、組立てられなくなり精度の確認もできることにもなりました。

■ 組子ベッドは全数検査

組子ベッドの梱包前には、すべてのパーツひとつひとつを厳重に点検し、NC加工して精度違いはないにしろ、すべて仮組して最終チェック。その後、に梱包して出荷しています。工場2Fでの作業していますが、室温は38度。たいへん暑い中で女子社員は頑張ってます。



■ 昔の記事

地元・大木町のこっぽーっと図書・情報センターには、西日本新聞提供のパピルスというデータベースが無料で使えるようになってます。1989年～数日前の記事が検索できます。試しに"大木町 和光"、"大木町 加島"で検索しましたら、10件ほど記事がでてきました。懐かしい〜(´_`)

(株)総桐箆筒和光



■危なかったキャンプの思い出



中学生の頃だったと思いますが、うちではよく家族でキャンプに行っていました。でも、いつも快適とは限りません。いつも何かが起こります。命に関わる危機もありました。

写真左はイメージですが、沢はもっと深かったと思います。高千穂だったと思います。こんな側にテント張ったことがあります。

夜中に雨が、、、

翌朝早く、両親がここを出るといいます。朝ご飯前です。雨が降って、沢は濁流に。このままでは危険と思ったとようです。

急いでテントを片付けて、車を出したら(おふくろの運転)、車がぬかるんで、谷底に落ちる方向に、それでも、そこは家族みんなで車を押して離脱に成功。しかし、県道にでる間際でまたぬかるんで立ち往生。今度は押してもまったく動かず。雨は土砂降り。いつ鉄砲水がくるか、濁流が襲ってくるかの状況。

いつも冷静なおふくろ、親父も、この時ばかりは慌ててました。なぜだか、命より車?と。

そんな時に助けてくれたのが、たまたま通りかかったコカコーラのお兄ちゃん達ふたり。ドシャブリの中、車を押してくれたのです。それでなんとか県道まででられました。車も家族も無事。この二人は、名前も付けずに立ち去って行きました。

家に帰ってから、おふくろ、なんとかお礼を言いたいと、コカコーラに電話して、当時、そこを通過した車両を聞き出してお礼を言ったそうです。



うちの醤油は、隣町は三橋町の吉開醤油さんの"キッコヨシ"。東京で仕事している息子は東京の醤油にどうしてもなじめず、なくなるとは「送って～」と催促があります。

吉開醤油さんはHPもなく、販売は「醤油ありますか～」の御用聞きスタイル。典型的な地元密着型醤油屋さんです。ですから、余所では買えません。そこが強みのようです。